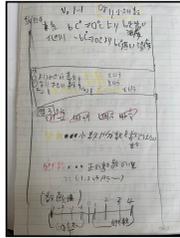


魔法のWallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名： 齋藤圭一郎	所属： 千葉市立高浜中学校	記録日： 2020年 2月 11日	
キーワード： 学習テキストのデジタル化、家庭学習の定着、持ち物の管理			
<p>【対象児の情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年 中学1年生 ・障害名 ADHD 読み書き障がい ・障害と困難の内容 <p>書字に対する困り感が強い。 読字は出来るが、行を飛ばして読んだり勝手読みがあったりする。 身の回りの持ち物の管理が難しい。</p>			
<p>【活動目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初のねらい <ol style="list-style-type: none"> ①学習用具、連絡事項を自己管理できるようにする。 ②自分に合った学習方法を見つける。 ③SNSを通じて、学校で出来たことや困り感を共有することで問題解決ができるようにする。 <p>※千葉市教育センターに確認を取ったところ ByTalkforschool 等の SNS の活用は禁止ということで、取り組めていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間 2019年5月8日～2020年2月5日 ・実施者 齋藤圭一郎 ・実施者と対象児の関係 LD等通級指導教室の担当 			
<p>【活動内容と対象児の変化】</p> <p>○対象児の事前の状況</p>			
	行動面	学習面	生活面
引き継ぎから	<ul style="list-style-type: none"> ・離席や教室から出てしまうことがある。 ・授業中、歌を口ずさむことがある。 ・注意の向け方と情報の処理の困難さから口頭の指示理解は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を書くことにストレスを感じている。 ・板書を写すことは難しい。 ・聴覚の情報で学びにつなげている。 ・通級指導（小学校）ではビジョントレーニングを行っていた。 ・コンパスや定規を使うことを嫌がるがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬（コンサーター）を小学6年の3月から飲み始めた。
き取り 保護者間	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にメールなどを送ることができる。（フリック入力活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で書いたものについて、消されたりやり直しをされたりすることを嫌がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土日は服薬しないため、多動の頻度が多くなり外出も不安になることがある。
（担任・通級担当） 行動観察	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用具の管理が難しく、制服などは畳む時間がなかったりして、散乱していることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を読む速さは、問題ないが勝手読みや行飛ばしがある。 ・授業中の板書は5割程度しか書き写せないことが多い。 ・繰り返し書くことに抵抗がある。 ・URAWSS II (R1.5.8 実施)書き評価 C 読み評価 A 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物などについて、やらなくてはいけないことはわかっているが、出来ないことで自己肯定感が下がっている。

○総合的な実態把握

- 注意が散漫で集中が持続しないため、学習に取り組むことが難しいことがある。
→刺激を減らすなどの環境設定や、手先の不器用さをサポートできれば学習に取り組めるのではないかな？
- 文章はある程度の読解はできるが、文中の読み間違いや勝手読み、行を飛ばしてしまうことがある。
→カラーパーラーペなどの視覚的な支援で、文末まで読めたり、正しく文章を読解したりすることができるのではないかな？
- 書くことについては、不器用さや目と手の協応の難しさがあり、また、不注意もあるため繰り返し書いたり長時間集中して書いたりすることが難しい。
→友人とSNSでやり取りをしているので、書字の代替えとしてICTを活用出来るのではないかな？
- 物や予定の管理が難しく、物を紛失したりやるべき内容が分からなくなってしまうたりする。
→いつ？何を？どのように？が明確かつ視覚的に提示できれば自分で管理できるのではないかな？



- 字の大きさが整わず、行内に書き込むことが難しい。
- 定規をうまく使えないため、線をフリーハンドで書くが整わない。

○活動の具体的内容

《学習用具、連絡事項を自己管理できるようにする》

① 身の回りの持ち物の管理

• 学校から配布されるプリントや、提出物（プリント、各教科の関係するもの）は把握が難しい事が多くあり、母親がクラスの保護者に連絡して何をいつ出すのか？何が配られているのか？を確認する事が多くあった。そのため、学校でプリントなどを管理するためのサポートを、担任の先生と相談をしながら行った。また家庭では、予定管理ができる TODO アプリを使い視覚的に分かるように取り組んだ。

② 本人にあった行動面の支援

• 本人の困り感は、学習面だけでなく「みんなと同じように出来ない」などと、日常生活の中でも困っていることがあった。行動面で、やるべき事がわかっているが、順番通りに取り組めなかったり、手持ち無沙汰の時に指しゃぶりをしたりすることがあった。そのため在籍校の先生方と相談しながら、特性に合わせたサポートを検討し取り組んだ。

《自分に合った学習方法を見つける》

① 書字の困難さのサポート

• 小学校時代から書字に抵抗感が強く、中学校に入学後もワークに取り組むことが難しい状況。しかし、生徒の気持ちの中には、「頑張りたい」という気持ちがある。そのため、書きへの負担軽減を考え、iPadでの代替えを考えた。スマートフォンを持っていてLINEなども使用していることから、入力方法の確認から行った。次に、各教科から出されているワーク（提出物）をiPadで行うことを考えた。



② 家庭学習の定着

• 生徒は「勉強を頑張りたい」という気持ちがあるが、家庭での学習の習慣がなく、ゲームをやって過ごすことが多くある。最低限の提出物は頑張りたいとやるが、各教科のワークの量が多く終わらないことがある。計画的に家庭学習を進め、定期試験前に困らないように、曜日ごとのスケジュールを立て、リマインダーや時計アプリを使い時間の管理を行った。内容については生徒に合った動画教材やeラーニングなどを検討し行った。

○対象児の事後の変化

《学習用具、連絡事項を自己管理できるようにする》

①身の回りの持ち物の管理

内容	具体的活動	変容
<p>[学習予定の把握]</p> <ul style="list-style-type: none"> テスト前の提出物は把握できず「こはやったはず」と勘違いして、直前に気づいて提出ができないということがあった。そこで、提出物の一覧を作り、何をどのくらい学習するのか？を視覚的に分かるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの宿題で主に使用した。生徒と母親で一覧を作成し、終わったものについては消していった。 宿題の一覧を紙にすると、対象生徒はその管理が難しかったり、そこに意識が向きにくかったりすることから、TODO アプリを使用して、宿題の把握を促した。  	<ul style="list-style-type: none"> 今までは、提出物と締め切りが書かれた紙を無くしてしまったが、一覧にしておくことで、生徒自身も分かりやすく、把握できるようになった。 宿題を iPad で行っていたので、宿題のチェックも TODO アプリを使って iPad で行くと流れがよく、忘れずにチェックをすることが出来た。
<p>[学習用具の管理]</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学当初は通学バックの中は散乱していて、何がどこに入っているのかが分からず、物を無くしたりすることがあったので、本人が分かりやすいように考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学バックの中は教科ごとに色付きのファイルで仕分けし、バックの中身が一目で分かるようにした。 配布プリントは散乱し紛失することもあったので、机の横にクリアケースをつけて、配布されたら、ケースに入れていくようにした。(赤くハイライトしてある隙間から入れられるようになっている)  	<ul style="list-style-type: none"> 教科書などの紛失もなくなり、教室以外での授業の際に慌てることなく移動することができた。また忘れ物も無くなった。 プリント類は確実に管理ができ、毎日家庭に持って帰るようになった。以前は母親がクラスの保護者に「何が配布されているのか？」を聞いていたが、その必要も無くなった。

②本人にあった行動面の支援

内容	具体的活動	変容
<p>[行動の調整]</p> <p>登校後、すぐに席に座り、準備をしないまま朝の会を迎えることが多かった。そのため、登校してからのスケジュールを活用して、やるべきことの順番や内容を提示した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 登校後のスケジュールを、机に貼り視覚的に確認ができるようにした。終わった項目には、○のカードを「終わった」へ移動させていった。 スケジュールには、マジックテープや硬いプラスチックの板を使用した。板の大きさや手触りなど本人の好きな感覚を取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学後、登校後の準備がスムーズにいかないことが多くあったが、今では朝の読書（朝の会の前）の時間には全て準備が終わり、読書を行うようになった。
<p>[明日の予定の管理]</p> <ul style="list-style-type: none"> 予定や1日の振り返りを記入するダイアリーは記入することが難しく空白の日が多くあった。そのため教科ごとに番号を設定し、ダイアリーの小さい枠にも、書き込めるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科に1～10の番号を設定し、ダイアリーには番号を記入していった。 番号にした理由は、「漢字より数字を書くことに抵抗がない」「教室の後ろの黒板を見て書き写すためなるべく見て覚えやすいように」「記入スペースが小さかった」という3つである。 	<ul style="list-style-type: none"> 番号を書き込むようにしてから、明日の予定を書き込むようになり、今では、時間に余裕がある日や自分なりに「書くことが出来る」と感じた日は、教科名を書き込んでいる。番号での記入と漢字での記入する日を本人なりに使い分けながら書いている。

<p>【癖に対する代替え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小さい時から指をしゃぶる癖があり、今でもある。家では、プラスチック片などを噛んだり、指しゃぶりがあつたりする。学校では手持ち無沙汰の時などに指をしゃぶることがあるため、衛生的に良くなく、周りからの印象も配慮して、指に代わるものを考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> シリコンキャップを鉛筆につけて、噛みたいときに噛むようにした。素材は、本人と相談しながら、「プラスチックより柔らかいものがいい」という事だったため、シリコンのものを使用した。 	<ul style="list-style-type: none"> シリコンキャップを使用する事で授業中に指をしゃぶることは減った。しかし、対象物が変わったただけであった。授業に集中できる環境作りは今後検討していく必要がある。
--	---	---

《自分に合った学習方法を見つける》

①書字の困難さのサポート

内容	具体的活動	変容
<p>【入力方法の検討と定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒と相談して入力方法（五十音、ローマ字、音声、フリック）を検討し練習した。 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅ではスマートフォンを使っているため、フリックをメインに練習した。使用したアプリは「にゃんこフリック道場」「フリック入力の練習ゲームのフリックパワー」2つを使った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「フリックパワー」はシンプルで分かりやすいメリットはあったが、飽きてしまう様子も見られた。「にゃんこフリック道場」はゲーム性がある事や、フリックのガイドも出てくるため、楽しく取り組めて、定着につながった。
<p>【学習ワークのデジタル化1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「OneNote」 「MetaMojjiNote」を使用し、社会と理科のワークを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 書字に困難さはあるが、生徒の中で「手書きがよいもの」「iPadで打ち込んだ方がよいもの」があり、聞き取りながら検討した。その結果、理科と社会はiPadで取り組んだ方が、負担がないとのことで、2教科から行った。国語、数学、英語については手書きが良いとのことだった。 ワークのデジタル化は、保護者がOffice lensで取り込み、ノートアプリに貼り付けたものを、生徒がフリック入力で回答していった。 OneNoteとMetaMojjiNoteの2つのアプリで取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 2つのノートアプリもすぐに操作に慣れ、取り組むことができた。最初は打ち込みに時間がかかっていたので、手書きでもいいこと、音声入力でもよいことを伝えたが、フリックで一発懸命取り組んでいた。 OneNoteは單元ごとに整理でき、分かりやすかったが、ページ数の分かりにくさで戸惑う場面もあった。 MetaMojjiNoteはページ数が分かりやすく、ノート感覚で使用できていた。 今までは、試験前の学習用ワークの提出は難しいことも多くあったが、デジタル化する事で、締め切りに間に合うようになった。
<p>【学習ワークのデジタル化2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験を重ねていくうちに、生徒から「国語のワークもiPadでやりたいです」と要望が出てきたため、検討し実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の提出物には、漢字と文章題の2種類あり、文章題のワークのデジタル化を行った。使用したアプリは、「縦式」という物で、原稿用紙をそのままデジタル化したような見た目になっていて、馴染みやすい様子だった。 	<ul style="list-style-type: none"> シンプルな操作方法と、枠の中に文字が入ることが学習の意欲に繋がったと感じている。 フリック入力もだいぶ慣れて、予測変換も上手に使ってできているため、スピード感も出てきた。ある程度長い文も負担なく入力でき、手書きに比べ誤字脱字も減った。

<p>【読みへのサポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 勝手読みや読み飛ばしなどがあったことや、授業では聴覚からの情報を学びに繋げているという話があったため、テジーボットを使用した。しかし、「音声教材より、自分で読んだ方がよい」ということだったので、正確に読み取るサポートを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> • カラーパーラーペを使い、どこを読んでいるのか？どこまでが一文なのか？を明確にした。カラーパーラーペを紹介してすぐに、「これは分かりやすい」と読みやすさは実感できていたため、すぐに学校で使用するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 今まで、自分のペースでさらっと読み終わることが多かったが、カラーパーラーペを使用する事で、なんとなく読むことが減り、文章を正確に読み取ることができるようになった。
---	---	---

②家庭学習の定着

内容	具体的活動	変容
<p>【学習のスケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保護者と生徒と面談をし、家庭での様子を細かく聞き取り、負担なく家庭学習が組み込めるように検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日、9時に服薬しその後、布団に入るが寝付けずに遅くまで寝られないとのことだったため、服薬後の時間を学習に当てることにした。そこで時計での時間の管理をすることは、生徒になかなか取り組めないことだったため、リマインダーや時計アプリを使用し、通知音での活動の提示を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> • 今まで家庭学習を行うことは少なく、ぼぼやっていない状態だったが、毎日9時～10時半くらいまで学習に取り組めるようになった。最初に決めた時間は1時間だったが、生徒自身で区切りのいいところを決め、決めた時間より長く取り組んでいる。
<p>【本人にあった学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数学については、小学校段階から分からなくなり、学び直しが必要だと、保護者との面談時に感じた。学び直しについてはパルステップで行い、聴覚からの情報は学びにつながりやすいことから動画教材を使用した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「テストの順位を上げたい」「勉強できるようにしたい」という意欲から、まずは動画教材を使用し、自分の興味のある分野から見てみることから始めた。写真はNHKfor Schoolを使い視聴した物の履歴で、興味のある歴史を多く見ている。 • パルステップについては、家庭学習の中で時間を設けて行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭での学習時間は増えてはいるが、テストに向けての学習用ワークに追われ、NHKfor School、パルステップ共に時間を割くことが難しい状況の時間が多くあり。成果が出にくい状況にある。しかし、学習のしやすさは、生徒が一番感じているため、今後は学習を積み上げていくことや定着できるような取り組みが大切だと感じている。現在1年生なので、2年生に進級すると同時に、家庭学習のスケジュールの見直しをする予定。

【報告者の気づきとエビデンス】

○生活面での気づき・エビデンス

【主観的気づき】

• 通学用カバンの整理、配布プリントの管理などが難しかったが、自己管理が出来るようになり、何がどこにあるのか把握できるようになった。年度当初は「俺は荷物の整理ができないんです」と言っていたが、今では持ち物の管理ができ、学習用具で困ることが大幅に少なくなった。

【エビデンス】

• 提出する物の管理が難しかったが、TODOアプリで一覧にして分かりやすくしたことで、生徒自身が確認できるようになり、提出物を期日までに提出できるようになった。そしてより良い管理方法を保護者と生徒が考え、今では写真でiPadに取り込み、視覚で確認できるようになった。保護者からは「写真を使えば、本人でも簡単にできるし複数枚プリントがあってもiPadで一括管理ができるので安心です」との話を聞くことができた。

○学習面での気づき・エビデンス

[主観的気づき]

・勉強を頑張りたいという気持ちはずっともっていたが、思うように学習に取り組めなかった背景がある。「なんでみんなと同じようにできないんだ」「できない俺はダメで価値がないんだ」などと泣きながら訴えることもあった。しかし、学習用ワークをデジタル化をすることで、書字の負担軽減につながり、みんなと同じように提出物が出せる事が以前に比べて増え、前向きに学習に取り組む姿勢を感じる。

[エビデンス]

～保護者の言葉～

「以前に比べて、学習に取り組む時間が早くなったし、学習の進み具合も早くなり、すべての教科に取り組むことができるようになった」

「テストに向けて頑張ろうという気持ちが強くなった」「家で勉強をするようになったので、結果に結びついてほしい」

「書くことへのストレスが少なくなり、手書きの早さも早くなった」

～生徒の言葉～

「中学校へ入って学習ワークが多いからiPadでやるのができて楽になった」

「自分がどうすれば出来るのか分かったから、点数がアップするように頑張りたい」

「マジ必須です！前はグループラインをやっていても、打ち込む前に話が変わったりしたけど、今は遅れずにコメントができるようになった」

《書字速度の変化・URAWSS II での評価》

	実施日	書き課題	読み課題	理解課題
基本課題	R1.5.8	C 評価 (14 字)	A 評価 (348 字)	5/6
介入課題	R1.6.19	C 評価 (10 字)	未実施	
介入課題	R1.12.12	C 評価 (77 字)	未実施	

・ワークを電子化した際の入力方法は、フリック入力を用いた。6月の段階では手書きより速さが出なかったため、音声入力も検討したが本人の希望で、フリック入力を続けた。12月の結果では前回の7倍のスピードで打ちこめている。打ち込みスピードが上がった大きな要素は、フリックのスキルが上がったことと、予測変換を使えるようになったことが要因だと考えられる。

・入力の速さが出てきたことで、iPadでの学習に抵抗なく取り組めるようになった。また手書きで行う課題についても、iPadでの学習用ワークが早く終わるようになったため、時間に余裕をもって取り組むことができている。

《試験前の学習用ワークの提出物の有無》

提出の有無 (○・×) 方法 (手書き・iPad)

教科	第一回テスト	第二回テスト	第三回テスト	第四回テスト
国語	× (手書き)	○ (手書き)	○ (iPad)	○ (iPad)
数学	× (手書き)	○ (手書き)	× (手書き)	× (手書き)
理科	× (手書き)	○ (iPad)	○ (iPad)	○ (iPad)
社会	○ (手書き)	○ (iPad)	○ (iPad)	※△ (iPad)
英語	× (手書き)	× (手書き)	× (手書き)	○ (手書き)

※第四回テストの社会の提出物は、終わっていたが印刷が間に合わなかったという理由で、△にしてある。

・初回の定期試験では、提出物が期日までに提出できなかったことか

ら、担任の先生に泣きながら「俺はダメだ」と訴えたことがあった。そして二回目のテストに向けてiPadを導入し2教科の学習用ワークのデジタル化をした。この二教科の負担が減ったことで、他教科の学習も余裕を持ててきたのだと考える。

○今後について

・ある程度の、学習スタイルや学習環境は整ったように感じている。これからは、家庭学習のスケジュールを見直して、学び直しが必要な数学についてはパルステップで学習し、各教科のワークと同時に動画教材や学習用アプリを使い、学習の定着を図って行きたい。そして学校での授業でも iPad を導入していき、「わかる授業」を感じてもらえるようにサポートをしていきたい。

・パルステップや NHKforSchool などを使った学習も、取り入れていたが、家庭学習では各教科のワークを行うことで精一杯でなかなかできなかった。2月に行った定期テストの後には、「学期末テストではパルステップやアプリで勉強をして点数アップさせたいです」と会話の中で出てきた。今後は学習の定着ができるような学習計画を立てる必要があると考えている。